

ま と め

以上放牧期間の延長に適する草種について、季節的な生育特性や越冬性などを中心にして述べた。春の入牧時期を早めるための草種として一応上繁草ではオーチャードグラスとトールフェスク、下繁草ではレッドトップが考えられるが、この時期の草種間差は小さいので、草種的な対応よりもむしろ融雪促進や施肥量的な対応が効果的と思われる。またこの時期の牧草の生育開始や生育量は、越冬障害と非常に関係が深いので、放牧期間の延長を考える場合はむしろ秋の放牧期間延長を重点に考えることが妥当のように思われる。秋の牧草の生育は草種によって大きな違いがみられるので、この時期の放牧期間の延長には、草種対応が十

分その効果を発揮できる。そのための適草種を、越冬性や秋の生育量などを考慮して選べば、越冬条件の厳しいところではメドウフェスクとトールフェスクが適草種であり、ペレニアルライグラスの越冬可能なところでは、この草種が前の2草種より適草種となる。トールフェスクは環境適応性が高く、何れの地帯でも適草種とみなされるが、利用時の生育状態によっては採食量の低下がみられるので、この点留意する必要がある。

また第5表に示されたように、品種による生育量にも差がみられ、さらに越冬性にも品種間差のあることが指摘されているので、品種の選定も重要である。しかしこれらに関する試験の蓄積が未だ少ないので、この点今後明らかにして行かねばならない。

札幌研究農場の移転工事進む

雪印種苗札幌研究農場は、札幌市白石区上野幌に在って、大正時代に最新のデンマーク酪農をとり入れた出納牧場として発足し、その後、現在の雪印乳業の前進である「酪連」の発祥の地として酪農発展のための基礎を築いて参りましたが、戦後、弊社の上野幌育種場として、牧草・飼料作物の品種改良を主として事業を進めて参りました。

この間、現在の多くの酪農家をご利用をいたしております赤クローバ・ハミドリ、オーチャードグラス・フロンティア、チモンシー・ホクオウを始め、最近ではメドウフェスク・ファースト、ペレニアルライグラス・マンモスなど新品種の作出育成に努力を重ねており、一方海外の優良品種を導入検定し、北海道内での利用適否につき試作を重ね、最も利用性の高い品種を選抜して実用化をはかり、この結果 F₁ とうもろこしのほか、オーチャードグラス・フィロックス、ケンタッキーブルーグラス・トロイなど各種の飼料作物、牧草が各地で活用されるようになりました。一方園芸蔬菜関係の品種改良も進み、こちらの方は本社所在地の美園の名を冠して、**美園交配**ニューサッポロ（ほう

れん草）、美園一本太葱（ねぎ）、美園鮮紅中長人参（にんじん）、いしかりトマト、日の出トマト、美園デリシャス（かぼちゃ）、ユキムスメ、サッポロミドリ（枝豆）など各種の優秀な改良種が発表され、それぞれ好評を博しております。

配合飼料関係については、乳牛を主体とする各種配合飼料の給与試験を重ね、合理的配合飼料の供給ができるための基礎試験、応用試験、分析研究等絶え間ない試験研究が行われ、需要家の皆様に蔭からの役目を果たしております。

先年来、この地域の都市化が進み、次第に研究活動に制約を受けるようになって参りましたので、長沼町幌内に代替地を求め、長沼農場として、圃場の整備、家畜舎の建設と共に乳用牛雄子牛の肥育試験、和牛の肥育飼料試験を実施しておりますが、この春乳牛用畜舎とサイロの完成で、乳牛の移転も終り、目下研究棟の建設に取りかかっております。完成は53年10月の予定で、明年よりは弊社の中央研究農場として活動ができる体制であります。